

## 音読指導を取り入れた自己表現力をつけるための授業の工夫

- スピーキング力の育成を目指して -

〇〇〇立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇

### 1 はじめに

学習指導要領では「実践的コミュニケーション能力」が外国語科の目標の中核をなし、その「実践的コミュニケーション能力」とは「外国語の音声や文字を使って実際にコミュニケーションを図ることができる能力である」とある。

しかしながら、自分の英語教育の実践を振り返ってみると、特に「英語」や「英語」において、「外国語の音声を使って実際にコミュニケーションを図ることができる能力」の育成に関してはやや関心が薄かったという反省がある。この研究は、「英語」や「英語」において生徒のスピーキング力育成を図ろうという試みである。

### 2 主題設定の理由

「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の四つの領域を総合的、有機的に関連付けたコミュニケーション活動の指導を行うことをねらいとした「英語」や「英語」で、私の授業では「話すこと」に関する指導が音読指導のみであり、生徒のスピーキング力育成について十分配慮した授業展開とは言えず、スピーキング力の育成を目指した授業改善の必要性を感じていた。そこで、授業の流れを次のように変更した。

【変更前】内容理解 音読指導

【変更後】内容理解 音読指導 1 音読指導 2 音読指導 3 自己表現活動

これは、音読指導を段階的にすることで理解した内容を効果的に表現することを目指すとともに、音読指導で自己表現活動のために必要な英語のスピーキングの基礎力を育成すれば、生徒が自信を持って自己表現活動に臨めるのではないかと考えたからである。

自己表現活動には「スキット作成・発表」を取り入れることとした。「スキット作成」は、テキストの内容に関連があり、なおかつ生徒に身近な場面や状況を設定することで、テキストで学んだ表現などを実際のコミュニケーションに近い場面や状況で使う活動につなげることができる考えた。また、「スキット発表」では、生徒自ら作成したスキットを発表することで、気持ちを含めたり、内容上重要なことを強調したりして英語を話す基礎的なスキルを身につけることができるだろうと考えた。これらの活動により、生徒のスピーキング力を育成するための授業改善を図りたい。

### 3 研究内容

#### (1) 理解した内容を効果的に表現するための段階的な音読指導

ア チャンキングできるようになったテキストを抑揚をつけた読み方につなげてゆく音読指導。(音読指導 1)

- イ Read & Look up , Overlapping , Repeating などの Recitation につながる音読指導。  
( 音読指導 2 )
- ウ 音読したテキストのサマリーの暗唱指導。( 音読指導 3 )
- ( 2 ) 自己表現活動をスピーキング力につなげる指導
  - ア 音読したテキストの内容や場面と学習した語彙や表現を利用した「スキット作成」
  - イ 自己表現上の留意点の指導
  - ウ ペアやグループでの「スキット発表」
- ( 3 ) 評価
  - ア 自己表現活動の評価の観点
  - イ 「スキット発表」の評価
  - ウ 観察評価

#### 4 研究計画

##### ( 1 ) 指導計画

期間	平成 18 年 6 月 ~ 平成 19 年 3 月	平成 19 年 4 月 ~ 12 月	
	試 行 実 施	本 実 施	
対象生徒	普通科第 3 学年 2 クラス ( 80 名 )	普通科第 1 学年 2 クラス ( 81 名 )	
科目	「リーディング」( 5 単位 )	「英語」( 5 単位 )	
使用教材	MAIN STREAM Reading Course ( 増進堂 )	MAIN STREAM ENGLISH I ( 増進堂 )	
研究内容	・テキストの内容理解後の様々なスピーキング活動の実施	・音読指導によるスピーキングの基礎力育成	・音読指導によるスピーキングの基礎力育成 ・自己表現活動をスピーキング力につなげるための工夫
指導方策	・ Recitation ・ 様々な音読 ・ テキストに関する Q & A ・ スキット作成・発表	・ 音読指導 1 ・ 音読指導 2 ・ 音読指導 3	・ 音読指導 1 ・ 音読指導 2 ・ 音読指導 3 ・ スキット作成 , 発表

##### ( 2 ) 指導の手順と留意点

	手 順	留 意 点	
音読指導 1	Model Reading  Chorus Reading  Pair Reading	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容を理解した音読をさせるために授業中の内容説明が終わったあとに , 10 分程度行う。</li> <li>・ 内容を理解したテキストを自分でチャンキングして読めるようにする。</li> <li>・ 登場人物の気持ちが伝わるように , また内容上重要なことを強調して読めるように , 抑揚をつけた読み方ができるようにする。</li> </ul>	レッスンのパートごとに行う。

音読指導 2	Read & Look up or Overlapping or Repeating	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読指導 1 で練習したチャンキングや抑揚をつけた読み方を常に意識させながら行う。</li> <li>・それぞれの活動の難易度や特徴を考慮し、テキストの難易度や生徒の習熟度に合わせた活動になるように配慮する。</li> </ul>	
音読指導 3	音読したテキストのサマリー作成  音読指導 2 で行った音読 を利用しての暗唱練習  暗唱発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1.5～2時間でサマリー作成から発表までを行う。</li> <li>・暗唱練習 暗唱発表に重点を置いて行う。</li> <li>・暗唱発表での評価項目をあらかじめ明示し、練習に生かせるようにする。</li> <li>・発表方法は、生徒の心理的負担を考慮し、徐々に聞き手の人数を多くしていくように配慮する。</li> </ul>	1 レ ス ス ン 終 了 こ と に 行 う。
自己表現活動	音読したテキストの内容に 関連する場面や状況にもとづいた スキット作成  発表練習  スキット発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1.5～2時間でスキット作成から発表までを行う。</li> <li>・練習や発表の際には、音読指導 1, 2 でのポイント（チャンキングや抑揚をつけた読み方）を意識して行う。</li> <li>・音読指導 3 で行ったプロシージャ - （作成 練習 発表）を活用する。</li> <li>・スキット発表での評価項目をあらかじめ明示し、練習に生かせるようにする。</li> </ul>	

## 5 研究実践

### （１） 理解した内容を効果的に表現するための段階的な音読指導

#### ア 音読指導 1

自己表現活動のために必要な英語のスピーキングの基礎力育成を目指し、次のような指導を重点的に行った。

#### （ア） チャンキングの指導

土屋（2004）によると、「チャンキングとはチャンク（語のかたまり）に区切ることをいう。もちろん、語のかたまりとは意味的または構造的にあるまとまりをもっている。また、ネイティブが発話をするときに、通常一気発するであろう語のかたまりである。したがって、チャンキングはテキストの読解にも音読にも重要な単位といえ、音読指導の第1歩は生徒にチャンキングを意識させることから始まるといっても過言ではない」とある。内容理解を伴った音読を意識させるために必要な指導であり、スピーキングの基礎力育成に最も重要であると考えられる。

##### a 指導手順

（a） 授業プリントにテキストの本文を載せ、チャンクごとにスラッシュを引かせる。

予習または授業の内容説明の前に行う。

（b） 授業での内容説明後に、もう一度どのようにスラッシュを引くべきか考える時間を与える。

（c） 教師の Model Reading により、チャンキングの例を示す。生徒は聞き取りながらポーズのあったところにスラッシュを加えていく。

( d ) 自分の引いたスラッシュと教師の Model Reading により引いたスラッシュを比較し、正しい内容理解ができているかどうか確認する。

( e ) 次のようなプリントを配布し、Chorus Reading や Pair Reading で練習する。

### 3. Reading Practice

### Pair Reading

### Overlapping

### Read & Translate

In 2002, / Noguchi set up a fund / to support Nepal's Sherpas / who help climbers / to reach the top of Mt. Everest. // While one-third of the lost and the dead / around Mt. Everest / are said to be Sherpas, / they continue to help climbers / to make a living. // Noguchi planned / to use the fund / to support the families of Sherpas / lost in the mountains. // He says, / "We have to take social responsibility / for those Sherpas. // We can't dispose of nature. // We can't dispose of people." //

2002年に/野口は基金を設立した/ネパールのシェルパを支援する/登山家を助けてくれる/エベレストの頂上に到達するのを// 行方不明者や死者の3分の1は/エベレストの/シェルパだと言われるが/シェルパ達は登山家を助け続けている/生計を立てるために// 野口は計画した/この基金を使うことを/シェルパの家族を支援するために/山で行方不明になった// 野口は言う/「私たちは社会的責任を負わなければならない/あのシェルパたちに// 私たちは自然を捨てることはできない// 人々を捨てることはできない」と//

### b 指導上の留意点

( a ) 英語の読みの苦手な生徒に対しては、次のようなチャンクを短く区切ったプリントを準備してメモリー・スパンを狭めることで対応した。1語読みではなく、少しでもチャンクを意識して読めるように指導した。

In 2002, / Noguchi set up / a fund / to support Nepal's Sherpas / who help climbers / to reach / the top of Mt. Everest. //

2002年に/野口は設立した/基金を/ネパールのシェルパを支援する/登山家を助けてくれる/到達するのを/エベレストの頂上に//

( b ) チャンキングの仕方には唯一の正解があると思ひ込む生徒もいる。チャンキングの長さは読み手の習熟度によっても変わる。流暢な読み手は長いチャンクで読むだろう。また、チャンキングは聞き手の状況によっても変わる。聞き取りの苦手な生徒に対しては短いチャンクで読んで聞かせるだろう。授業では、チャンキングの正解を求めるのではなく、意味のまとまりで話すことが重要であることを意識させることで、スピーキング力育成につながる基礎練習になることを強調した。

### (イ) 抑揚をつけた読み方の指導

抑揚をつけた読み方をするので、内容を効果的に表現することができるので、スピーキングの基礎力育成には不可欠であると考え。

### a 指導手順

( a ) Model Reading や Chorus Reading のときに、教師ができるだけ抑揚をつけた読み方をするようにし、生徒に気づかせる。

( b ) 内容説明のあとにもう一度スラッシュを各自で引かせ、理解した内容をよく考えながら、チャンクごとで強調して読むところを考えさせる時間を与える。

( c ) Chorus Reading や Pair Reading のときに強調して読むところを意識して練習させる。

( d ) 必要に応じて、教師が抑揚のつけ方の見本を示しリピートさせる。

b 指導上の留意点

- (a) チャンクごとで強調して読むところを意識させ、チャンキングの指導と平行して行うようにする。
- (b) 一般に、チャンクや文の中で強勢を受けるのは内容語であり、機能語は強勢を受けない、という英語のリズムや強勢についての一般規則を学期の始めの段階で簡単に示し、その後繰り返し練習する中で意識化を心がける。
- (c) 英語の強勢やリズムは日本語のそれとは異なることを例を示したり、説明したりして理解させる。

(ウ) 音声変化に留意した読み方の指導

- a チャンキングや抑揚をつけた読み方が身に付いてきて、音読に余裕を持って臨める生徒に対しては音声変化にも留意させたい。音の脱落や同化を意識すると、語と語の音のつながりが生まれるので読みが速くなる。しかし、スピーキングの基礎力育成を目指すには、チャンキングと抑揚をつけた読み方を確実に身に付けさせたいので生徒の様子を見ながら指導する必要がある。
- b イントネーションに留意させることも、Yes-No 疑問文の文末を上げて読む程度であればよいが、生徒にとって過度の負担にならないような配慮が必要である。

イ 音読指導 2

音読指導 1 で練習したチャンキングや抑揚をつけた読み方を Recitation につなげることを目指す。以下にその指導方法、指導手順、留意点を示す。

指導方法	指導手順	留意点
Read & Look up (1)	テキストを見ながらモデルの音声を聞く。 モデルが読み終わったら顔をあげる。 文字を見ないでその部分を音読する。	・チャンキングを意識させる。 ・Recitation のための練習として導入期に行うのに有効である。
Read & Look up (2)	テキストのチャンクまたはセンテンスを黙読する。 黙読し終わったら顔をあげる。 文字を見ないでその部分を音読する。	・Recitation のための個人練習として有効であることを理解させる。 ・チャンキングを意識させる。
Overlapping	モデルの音声を聞きながら、テキストを見る。 モデルの音声と一緒にまたは少し遅れながら音読する。	・生徒の読みの速度を上げるのに有効である。
Repeating (1)	テキストを見ながらモデルの音声を聞く。 モデルが読み終わったらテキストを見ながらその部分を音読する。 数秒おいて今度は顔をあげて文字を見ずに同じ部分を音読する。	・生徒のメモリー・スパンを広げるのに有効である。 ・センテンス単位でのリピートが基本であるが、テキストの難易度や生徒の習熟度に応じてチャンク単位などでも行う。

Repeating (2)	テキストを見ながらモデルの音声を聞く。 モデルが読み終わったら顔をあげ、文字を見ないでその部分を音読する。 顔をあげたまま、数秒おいてもう一度同じ部分を音読する。	・ Repeating (1)よりも難易度が高い。
Repeating (3)	テキストを見ないでモデルの音声を聞く。 モデルが読み終わったらその部分の文字を見ないままで繰り返す。	・ 音に集中することで、英語の音声特徴を意識し、より英語らしく音読することを目指す。

### ウ 音読指導 3

音読指導 1, 2 で身につけたスピーキングの基礎力を自己表現活動につなげるために Recitation を行い、音読できたテキストの内容をできるだけ自分の言葉で話せるようになることを目指す。

#### (ア) 音読したテキストのサマリー作成

- a 生徒は1レッスンの中のパート1つを選び、そのパートについてのサマリーを作成する。
- b 4月の段階で英文の段落構造についての簡単な説明をし、トピック・センテンスに気づかせる指導をしておく。
- c 各自が選んだパートのテキストの中から、トピック・センテンスを抜き出し、必要に応じてそれに1～2文を付け加えたもの(全体で3～4文程度)をサマリーとする。

#### (イ) サマリートの暗唱練習

- a ペアやグループで、聞き手を想定した練習をする時間を10分程度与える。
- b 音読指導2で行った練習方法が有効であることを伝えて練習に生かすよう指導する。
- c 発表での評価項目を練習の段階で予め生徒に伝える。

#### (ウ) サマリートの暗唱発表

##### a 発表方法

	平成19年5月実施	平成19年6月実施	平成19年7月実施
発表方法 (聞き手の人数)	ペア (1人)	グループ (5人)	グループ(5人) + ビデオ撮影

- b 「自己評価シート」で自分の発表を自己評価し、感想を加える。

### (2) 自己表現活動をスピーキング力につなげる指導

#### ア 音読したテキストの内容や場面と学習した語彙や表現を利用した「スキット作成」

田中(2003)によると、「言語活動を、創造的で個性的な自己表現活動に変えるには、必然性、具体性、自己関連性、自由度がポイントとなる」とある。つまり、生徒が独創性を発揮できるような身近で具体的な場面や状況設定が必要であり、その場面や状況をテキストの内容と絡めるところに教師の工夫が必要となる。

#### (ア) 指導手順

- a テキストの復習を通して、スキット作成の場面や状況を理解させる。



は座席に座ったままで行う。

d 教師はすべてのグループの発表が同時に始まるように進行役を務める。

e それぞれの発表が終わったら，発表者と聞き手は発表の評価と感想を「相互評価シート」に記入する。

### (3) 評価

#### ア 自己表現活動の評価の観点

音読指導 1～3 で身につけたスピーキングの基礎力を実際のコミュニケーションに近い場面や状況で発揮できるかどうかを評価するために，次のような評価項目を設定した。

評価項目	評価の観点	評価
EYE CONTACT	・メモを見てもかまわないが，話すときにはメモから目を離し，パートナーを見ていたか。 ・その場面や状況に相応しい音量で話していたか。	5・4・3・2・1
CHUNKING	・意味のまとまりで区切って話せたか。	5・4・3・2・1
STRESS	・内容上重要なところは強調して話すように意識していたか。 ・場面や状況を考えながら，登場人物の気持ちになり話すように意識していたか。	5・4・3・2・1
評価基準	5 = よくできた 4 = できた 3 = どちらともいえない 2 = できなかった 1 = まったくできなかった	

#### イ 「スキット発表」の評価

##### (ア) 相互評価平均点

評価項目	第1回		第2回		平均点	
	自己評価	他者評価	自己評価	他者評価	自己評価	他者評価
EYE CONTACT	4.0	4.3	4.5	4.8	4.3	4.6
CHUNKING	3.8	3.9	4.4	4.5	4.1	4.2
STRESS	3.5	3.8	4.2	4.6	3.9	4.2

##### (イ) 生徒感想

「感情豊かにできたと思う。発音もスムーズにできたけど，あまり EYE CONTACT ができなかった。次回はもっと練習してやりたいです。」 「だんだん英語が読めるようになってきた気がする。」  
「感情を込めて話せたので，今回は前と比べて自分の言葉で話せました。」

#### ウ 観察評価

##### (ア) スキット作成について

テキストやハンドアウトにない表現が必要なときは辞書を引いたり，教師に尋ねたりするなど意欲的に活動する姿が見られた。

##### (イ) 発表練習について

評価項目を意識しながら練習することにより，自分たちの発表のレベルを上げるポイントを明確にすることができるので，より積極的に練習する生徒が多くなった。



(ウ) スキット発表について

第1回の発表に比べると第2回の発表では抑揚をつけた読み方を意識した発表が多く、滑らかで大きな声の発表が増えた。他者評価においてもその変化が認められる。

6 指導事例

(1) 1レッスンの指導例

指導手順	配当時間
<div>テキストの内容理解と音読指導</div> <div><div>パートごとの指導手順（各 1.5 時間配当）</div><div>Warm-up （ペア・ワークによる Brainstorming や英問英答などでの Schematization） Slash Reading （授業プリントのテキストにスラッシュを引きながらの黙読） Questions （英文中の適語選択による内容確認問題） 語句の確認 内容説明 True or False Questions （聞き取りによる内容確認問題） 音読指導 1 音読指導 2 Dictation</div></div>	5 ～ 6 時間
文法・語彙指導	2 時間
音読指導 3	1.5 ～ 2 時間
自己表現活動	1.5 ～ 2 時間

(2) 授業展開例 (自己表現活動の授業)

<p>Warm-up</p> <p>ペアで音読練習(題材の場面となるパートの音読)</p> <p>内容に関する英問英答</p> <p>Introduction</p> <p>テキストに出てきた場面を使用し、ペアでスキット作りを行うことを伝える。使用した場面は以下のテキストの波線部である。</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>When the atomic bomb was dropped on Hiroshima in 1945, Sadako was two years old. Until the age of twelve, she was a healthy girl. In fact, she was the best runner in her class. One day, however, while she was running in the school yard, she felt dizzy and fell to the ground. On February 21, 1955, Sadako was put in a hospital with leukemia.</p> <p><u>Her best friend, Chizuko, visited her in the hospital. Chizuko said to Sadako, "If you fold a thousand paper cranes, your wish will come true."</u> Sadako started to work on the paper cranes in August. Each time she folded a crane, she hoped to get well. In autumn she got worse, but she never gave up. She continued to fold the cranes and fought against her disease. Sadly, her wish didn't come true. On October 25, 1955, she died.</p> <p><u>MAIN STREAM I Lesson4 Part 1</u></p> </td></tr> </table>	<p>When the atomic bomb was dropped on Hiroshima in 1945, Sadako was two years old. Until the age of twelve, she was a healthy girl. In fact, she was the best runner in her class. One day, however, while she was running in the school yard, she felt dizzy and fell to the ground. On February 21, 1955, Sadako was put in a hospital with leukemia.</p> <p><u>Her best friend, Chizuko, visited her in the hospital. Chizuko said to Sadako, "If you fold a thousand paper cranes, your wish will come true."</u> Sadako started to work on the paper cranes in August. Each time she folded a crane, she hoped to get well. In autumn she got worse, but she never gave up. She continued to fold the cranes and fought against her disease. Sadly, her wish didn't come true. On October 25, 1955, she died.</p> <p><u>MAIN STREAM I Lesson4 Part 1</u></p>
<p>When the atomic bomb was dropped on Hiroshima in 1945, Sadako was two years old. Until the age of twelve, she was a healthy girl. In fact, she was the best runner in her class. One day, however, while she was running in the school yard, she felt dizzy and fell to the ground. On February 21, 1955, Sadako was put in a hospital with leukemia.</p> <p><u>Her best friend, Chizuko, visited her in the hospital. Chizuko said to Sadako, "If you fold a thousand paper cranes, your wish will come true."</u> Sadako started to work on the paper cranes in August. Each time she folded a crane, she hoped to get well. In autumn she got worse, but she never gave up. She continued to fold the cranes and fought against her disease. Sadly, her wish didn't come true. On October 25, 1955, she died.</p> <p><u>MAIN STREAM I Lesson4 Part 1</u></p>	

<p>ここは「白血病で入院したサダコをチズコが見舞う」という場面であることを理解させ、準備活動としてペアでこの場面を日本語でロール・プレイする。</p> <p>スキット作成</p>	
<p>【生徒作品例】</p> <p>Chizuko: Hello, Sadako. How are you?</p> <p>Sadako: <u>I feel fine today.</u> But <u>I felt sick yesterday.</u></p> <p>Chizuko: <u>Please don't be discouraged.</u> You will <u>get well.</u></p> <p>Sadako: Thank you. I <u>hope to get well soon.</u></p> <p>Chizuko: <u>If you fold a thousand paper cranes, your wish will come true.</u></p> <p>Sadako: Really!! I'll <u>start to work on it.</u> Thank you again, Chizuko.</p> <p>Chizuko: <u>Cheer up!</u> <u>Hope you get well soon.</u></p> <p>Sadako: Thank you.</p>	<p>注：１）波線部は必ず使用するよう に指示した部分。</p> <p>２）下線部はテキストの中の 表現を使用した部分。</p> <p>３）２重下線部はハンドア ウトの中の表現を使用し た部分。</p>
<p>発表練習</p> <p>スキット発表</p>	

## 7 評価

本研究の主題設定の理由に照らし評価項目を設定し、研究全体の評価をした。

### ( 1 ) 教師による研究全体の自己評価

評価項目	評価	コメント
生徒のスピーキングの基礎力は向上したか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容理解を伴った音読をすることで、チャンキングをして話す意識をかなり高めることができた。</li> <li>・ 抑揚をつけて話すことを意識しているが、発話には現れない生徒もいた。</li> </ul>
生徒はテキストで学んだ表現などを実際のコミュニケーションに近い場面で使えるようになったか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキストの内容に関連があり、なおかつ生徒に身近な場面や状況を設定することで、テキストの中の語彙や表現を普段のコミュニケーションの語彙や表現と結びつけて考えるようになり、スキットの中でそれらの語彙や表現を適切に使うことができるようになった。</li> </ul>
生徒は気持ちを込めたり、内容上重要なことを強調したりして英語を話せるようになったか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スキットを生徒自ら作成することにより場面や状況の理解が深いために、会話の流れを把握し、自分の言葉で話している発話が多くなった。</li> </ul>
スピーキング力の育成を目指した授業へと改善されたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読やスキットの練習・発表により、授業中の生徒の英語による発話の量は格段に増えた。生徒たちも授業中に英語を話すことに抵抗を感じなくなってきた。</li> <li>・ 授業中に生徒のスピーキングの時間を確保するためにはそれ以外の活動（内容理解や語彙指導）を能率的に行う必要があり、そのことでより一層授業が変わった。</li> </ul>
<p>評価基準      4 = そう思う    3 = ほぼそう思う    2 = どちらとも言えない    1 = そう思わない</p>		

( 2 ) 生徒の Can-Do ステイトメントによる評価

評価項目	評価			
	4	3	2	1
	そう思う	だいたい そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない
チャンキングを意識して英語を音読できるようになった	2 3 %	5 0 %	2 7 %	0 %
抑揚をつけた読み方を意識して英語を音読できるようになった	1 8 %	3 8 %	4 0 %	4 %
様々な音読練習により, 英語の音読に対する抵抗がなくなった	3 5 %	4 5 %	1 8 %	2 %
3 ~ 4 文程度の英文を暗唱できるようになった	2 3 %	3 8 %	3 5 %	4 %
暗唱を発表するときは, 聞き手のほうを見て話せるようになった	2 0 %	4 3 %	2 7 %	1 0 %
教科書やプリントの表現を使って英語のスキットを作れるようになった	2 0 %	4 3 %	3 3 %	4 %
パートナーと協力して英語のスキットを作ったり, 発表の練習をしたりできた	4 5 %	2 5 %	2 5 %	5 %
発表前の練習では評価項目 ( eye contact , chunking , stress ) を意識して練習できた	4 3 %	4 3 %	1 0 %	4 %
発表では eye contact や chunking を意識して英語を話せた	3 0 %	4 0 %	2 5 %	5 %
発表では気持ちを込めて英語を話せた	2 3 %	3 8 %	3 2 %	7 %
人前で英語を話す ( 読む ) のに慣れてきた	3 0 %	3 0 %	2 0 %	2 0 %

( 3 ) 様々な活動に対する生徒の感想

「人前で英語を話すのは少し恥ずかしかったけど, ペアでの音読練習などで少し抵抗がなくなったかなと思う。」 「英語を声に出して読んでいるので, 前に比べて英語を早く読めるようになったし, つながりが分かったので読みやすくなりました。」 「会話を作る中で, うまく表現を使ったり, その状況にあった文法を使ったりなどしてとても身につくと思う。」 「練習ではそれなりにできていたけど, 発表になると緊張して集中できず, よくかんでしまうのがくやしい。」 「発表は全員の前では嫌だけど, 班でなら平気になった。」 「発表の際の人数が少ないと思う。少人数なら抵抗感が少なくなるだろうけど, 大勢の前で話すというのもこれから必要になると思う。」 「コミュニケーション下手な自分にとって, ときどきつらいときがある。」

8 考察

( 1 ) 音読指導 2 について

音読が得意な生徒にとってはさらなるレベル・アップにつながったが, 自信のない生徒たちの中には途中で諦めてしまう生徒もいた。生徒が慣れるまでは音読するテキストの中

の単語を3語～5語ごとで板書し、その単語を見ながらリピートさせた。この方法により、音読の苦手な生徒も Read & Look up や Repeating に無理なく取り組むことができた。

## (2) 発表について

十分に練習を積んでいても、発表になるとその実力を発揮できない生徒もいた。また英語のみならずコミュニケーション自体が不得手なものもある。そのような生徒に対しては発表方法に配慮するだけでなく、作成したスキットの質を評価するなどのフォロー・アップの必要性を感じた。

## (3) 相互評価について

スピーキング力向上に向けて、生徒の意識をより高めるためには、聞き手や教師からの評価をフィードバックとして明確に与えることで自信を得させたり、課題を見つけさせたりすることが必要であると感じた。また、自分の発表を録音や録画し振り返ることも効果的なフィードバックになるので、今後の課題としたい。

## 9 おわりに

今までの授業を改善するために段階的な音読指導を取り入れ、自己表現活動を行うことで音声指導を充実させ、英文読解で終わらない授業を目指した。研究を進める中では私の勉強不足から様々な壁にぶつかった。特に高校生に対して音声の流暢さを求めるべきか、それとも発話の内容を重視するべきかという疑問を考えたときには、研究自体に対する意義さえ見失った。

しかし、悩んだことは無駄になっていないと思う。教授法や言語材料について深く考えるようになり、なにより生徒のことを深く考えられるようになったと思う。これからも授業改善を続けていきたい。

最後に、この研修の機会を与えてくださった方々に感謝するとともに、直接ご指導いただいた前教育庁教育振興部指導課指導主事 先生、現教育庁教育振興部指導課指導主事 先生、前教科指導員 先生、現教科指導員 先生、先生に心から感謝申し上げます。

## 参考文献

- 松本 茂 編著「生徒を変えるコミュニケーション活動 自己表現活動の留意点と進め方」(2006) 教育出版  
田中 武夫・田中 知聡 「『自己表現活動』を取り入れた英語授業」(2005) 大修館書店  
三浦 孝・中嶋 洋一・池岡 慎 「ヒューマンな英語授業がしたい!」(2006) 研究社  
高梨 庸雄 「英語の『授業力』を高めるために 授業分析からの提言」(2005) 三省堂  
岡 秀夫・赤池 秀代・酒井 志延 「『英語授業力』強化マニュアル」(2005) 大修館書店  
Jeremy Harmer 「実践的英語教育の指導法 - 4 技能から評価まで - 」(2003) ピアソン・エデュケーション  
土屋 澄男 「英語コミュニケーションの基礎を作る 音読指導」(2006) 研究社  
國弘 正雄・千田 潤一 監修「英会話・ぜったい音読 続・入門編」(2007) 講談社インターナショナル  
近江 誠 「オラル・インタープリテーション入門 - 英語の深い読みと表現の指導」(1992) 大修館書店  
鳥飼 玖美子 監修 「はじめてのシャドーイング」(2005) 学研  
門田 修平・玉井 健 「決定版 英語シャドーイング」(2006) 文芸春秋  
高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 (1999) 文部省  
Littlewood, W. *Communicative Language Teaching* (2005) Cambridge University Press